

しまねの
ひととひと
女と男

第40号

特集

男女共同参画の

視点から考える防災

目次

- ◆ 「災害から生きのびるための男女共同参画
～東日本大震災から学ぶ防災・減災・避難・復興に必要な視点～」
田端八重子さん（一般社団法人GEN・J代表理事）…………… 2
- ◆ あすてらすフェスティバル 2016 分科会レポート …… 4
- ポケットクイズ ミニ解説 …………… 6
- リレーコラム …………… 6
- 講座レポート …………… 7
- 島根県からのお知らせ …………… 8

ご存じですか?! 女と男との参画関係

あすてらすポケットクイズ

毎号、特集テーマに関連した男女共同参画に関するクイズ等を出題します。
心のポケットにしまっておきたい、ポケットからちょっと取り出して伝えたい
情報をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

女性と防災

問題

東日本大震災被災3県の自治体が把握した
避難所等でのニーズのうち、男性に比べて最
も女性からの要望が多かったのは、次のうち
どれか。



- ① 更衣室・授乳室、入浴施設
- ② プライバシー確保用仕切
- ③ 高齢者への配慮

※答えは6頁のミニ解説【データ編】へ

県立男女共同参画センター「あすてらす」では、島根県男女共同参画推進月間である6月に「あすてらすフェスティバル」を開催しています。東日本大震災から5年を経た今年は、防災対策における男女共同参画の推進をめざして、「男女共同参画の視点から考える防災」をテーマに実施しました。

折しも、4月に発生した熊本地震では、避難所運営等に男女共同参画の視点が十分活かされていないという課題も指摘されています。改めて、フェスティバルでの講師のお話や分科会での取組を振り返りながら、災害と男女共同参画の関係について、課題とその解決のヒントについて考えてみましょう。

《講演抄録》

災害から生きのびるための男女共同参画

～東日本大震災から学ぶ防災・減災・避難・復興に必要な視点～

一般社団法人GEN・J 代表理事 田端 八重子さん

災害と男女共同参画の関わりを考える上で大前提となるポイントは、重要な仕事や意思決定には男性を、家事やケア役割など補助的な業務には女性を振り分けるという性別役割の慣行が、社会全体にとっては不利益となるという認識です。これを解消しようと男女共同参画がめざされているのですが、この不利益が最も顕著に深刻な形で表れるのが災害の時なのです。私自身が経験した東日本大震災の、特に岩手県の状態を踏まえながら、なぜ防災・減災・避難所運営・復旧・復興に男女共同参画が重要なのか説明したいと思います。

1

あの時、どんなことが起きていたのか…

発災～避難所で

ご存じのように、自然災害が発生した時、一番大切なのは自分の命を守ることです。地域の中には、老若男女、障がいの有無、単身かそうでないか、外国籍かなど、多様な人たちが暮らしていますが、どんな人であってもどんなことがあっても生きるための知恵をフル回転させて生きのびなければなりません。東日本大震災では、津波などによって本当に多くの犠牲者がでましたが、これら直接の犠牲とは異なり、発災時より日数を経ての関連死も多く報告されています（H27.9.30 現在まで岩手県合計 455 人）。折角助かった命を大切にするためにも、この関連死は避けなければなりませんし、それこそが私たち皆の責務です。

多様な人たちが、どんな条件であっても生きのび、またその後の避難でもそれぞれのニーズにあった安全・安心でできるだけ快適な生活が送れるようにする（そのことが関連死の減少・解消にも繋がる）ためには、実は男女共同参画の視点での取組が大切なのですが、あの震災時には、この視点が不足していたと言えます。

例えば、避難所でのプライバシーや衛生面・健康確保の問題。仕切りや授乳室・更衣室などが重要ですが、当時は多くの避難所で作られておらず、危険を承知で自宅に戻ったり車中で過ごしたりする人も少なくありませんでした。トイレの問題も深刻です。男女別になっていなかったり、衛生面や治安等への不安から我慢をした結果健康を害した

人は、女性や子ども、高齢者、障がい者に多く偏っていました。物資の配布についても課題が浮き彫りになりました。下着や生理用品、化粧品などの女性用品や、乳幼児用のミルク・ほ乳瓶・おむつ・離乳食、介護用のおむつ・下着などは不足しがち、あってもサイズや年齢に合ったものが揃わないという問題に加えて、配布者が男性だけだったために受け取れなかった人や希望を伝えられなかった人がたくさんいたのです。また、忘れてならないのは、避難所での役割分担の問題です。ある数百人規模の避難所では、三度の食事、掃除など衛生管理、様々なケア役割が全て女性だけに委ねられたため、女性たちは毎日へとへとでしたが、男性たちに何度協力を頼んでも、「俺たちがいたって邪魔になるだけ」と手伝ってもらえなかったそうです。逆に、男性が多くを務めたリーダー役は、困っていても、その責任感の強さから誰かに相談したり役割を手渡すことができず、過労や孤立がエスカレートした避難所もありました。

知らない人同士と一緒に生活しなければならない避難所暮らしは、いつまで続くのかも見通すことが難しく、ただでさえストレスを抱えるものです。そして、こうしたストレスの積み重ねが、命に関わる心身の不調のみならず、災害時のDVや性暴力、ハラスメント等、暴力の増加の一因とも言われています。上記のような不便や不安をできるだけ最小限にし、ストレスを増やさないために、また、女性や弱者への暴力を防止するためにも男女共同参画の視点が不可欠なのです。



田端八重子さん

●プロフィール

もりおか女性センターの建設、NPO法人参画プランニング・いわての設立に関わり、もりおか女性センター指定管理を受託、センター長に就任（2011年4月～2015年7月）。東日本大震災後は、岩手県沿岸地域の支援活動に関わる。2015年4月に「一般社団法人G E N・J」を立ち上げ、復興庁事業を受託、沿岸自治体と連携して女性の起業化育成を目的とした「買い物代行＋見守り」事業を展開。震災と人権、災害と女性、男女共同参画視点での防災・減災などをテーマに、講演会や執筆活動も行い、NHK「視点・論点」「あさイチ」「NHKニュースおはよう日本」等メディアにも多数出演。著書に『女たちが女性センターの運営に乗り出した！』（共著 2006.ユック舎）等。

2

平常時からの防災・減災の取組

では、どのように男女共同参画の視点で取り組めばいいでしょうか。

まず、平常時から、地域の防災力を高めておくことが大事です。具体的には、「向こう三軒両隣」の意識を男女問わず一人ひとりが持つということです。発災後に自分の身の安全を確保できたら、まず、近所に声をかけて様子を確認しましょう。そして、可能なら一人で避難するのが難しい人は誘って連れて行くなど助け合うのです。この時、助けてもらう側も、「放っておいて」ではなく「ありがとう」と支援を受ける受援力というものが重要になります。行政や消防機関など、公的な救助・援助にあたる人たちは、地域の人たちの安否情報をまず集めないといけません。災害時には各地域を回って確認することが極めて困難です。それぞれの地域の方から、「うちの近所は大丈夫」とか「〇〇地区の誰それさんがこういう状況です」など教えてもらえるととても助かり、このことが効果的な援助と被害を最小限に食い止めることに繋がるのです。

また、平常時から男女共同参画を意識して、女性防災リーダーとなりうる人材育成に取り組んでおくことも大切です。女性リーダーの必要性は、東日本大震災を機に指摘されるようになりましたが、現在はまだ各地域で圧倒的に少ない状況です。先に挙げたような避難所での困難を軽減するためにも、多様な視点をもつ人材として、女性リーダーを意識的に増やすことが求められています。

さらに、見落とされがちですが、行政の取組についても触れておきたいと思います。私たち地域住民は、災害が起きた場合には、一番に行政の人が避難所に駆けつけてくれ、何が必要かを把握し、できるだけ不便のないように差配してくれるかのように期待しているかも知れません。ですが、行政も、そして職員も被災します。停電や断水によって行政機能は麻痺し、交通機関も使えなければ情報収集も滞ります。そんな中、家族の安否を尋ねたり、様々なニーズを持った地域住民が窓口に来てくるのです。職員はたとえ

自身の家族の状況が不明であろうと24時間対応に当たり、時には苦情の受け手となって忙殺され疲弊していくことになります。このようなストレスの溜まる切れ目ない業務への労務管理は、東日本大震災前にはきちんと行われていませんでした。特に、激務が集中したのは、男性職員と、子どもや老親のケアの必要のない女性職員で、精神的に追い詰められた人が大勢いたそうです。では、子どもや高齢の家族がいる女性職員はどうかといえば、保育所や介護施設の復旧がままならない中、その面倒を見るために退職せざるをえなくなった人が多く、その事が残った職員の激務を更に深刻化させた面もありました。平常時には、比較的男女平等と思われる行政職場も災害時は一変します。地域のため一人でも多くの職員の力が必要とされる災害時にこうした問題に陥らないために、平常時から災害時を意識した男女共同参画の労務管理を行い、保育と介護の施設・機能がいち早く復旧できるようこれらの分野は社会化するという意識を浸透させることが、職員にとっても地域にとってもプラスになるでしょう。

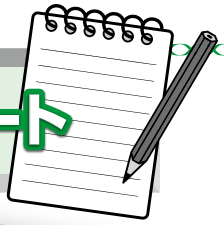
3

市民による市民のための 避難所運営のために

東日本大震災での長期に渡る大変な避難所生活の経験を知恵に変えるためにも、最後に皆さんにお勧めしたいのは、各地域ごとのニーズや課題に合った「避難所運営マニュアル」の作成です。このマニュアル作成には、地域から女性を始め多様な人が参加してその意見が反映され、その上で、避難所の運営にも多様な人が参画できる内容にしなくてはなりません。そして、マニュアルが完成したら、ぜひとも各地域で、男女ともに協力し合って、防災訓練に活かしてください。

災害は起こってほしくありませんが、もしかして起きるかも知れないということに常に心を寄せて準備を整えておいてほしいと思います。

あすてらすフェスティバル2016 分科会レポート



分科会1 「もしもに備えを！みんなの命の守り方～つながりこそ地域の力」

企画・運営：(公財)しまね女性センター、島根県防災部防災危機管理課、^{ひとひとき}やすぎ女男輝らり会*

●減災のためのワークショップ

地域の防災・減災に男女共同参画、多様性配慮の視点を取り入れることを目的に開催したワークショップには定員を上回る申込があり、県内各地から防災や男女共同参画に関心のある方や、自主防災組織のメンバー、行政職員等が意欲的に参加されました。

まずは予備知識として、東日本大震災など大規模災害での被災の実態を様々なデータから読み解くミニ講義のあとは、2種類のグループワークを実施。災害時に起こり得る場面を描いたイラストから、状況や登場人物の気持ちを読み取るワークでは、性別や立場によって困難や支援のあり方が異なることに気づきました。

また、避難所での要援護者の支援について考えるワークでは、被災者一人ひとりの多様



活発に意見が飛び交うグループワーク。進行役はやすぎ女男輝らり会メンバー(写真右)

性に配慮した防災体制づくりや避難所運営について、受講者同士の意見交換を通して理解を深めました。いずれのワークも考える時間、意見交換を中心とした進め方で、受講者は自身で考え、かつ他者と語り合うことでより確かな気づきを得られ、各地域での実践につなげようとする意気込みが感じられました。

参加者の感想(抜粋)

- 他人事にせず、当事者意識をもって参画する必要性がわかった。
- 多様性を受け入れる、また発信していくことが平時にできていないと、災害時には決してできないと思った。

※「やすぎ女男輝らり会」とは…

安来市在住の島根県男女共同参画サポーターを中心としたグループで、地域での男女共同参画推進を目的とした啓発活動を行っている。近年は避難所運営など防災をテーマとした講座の企画、運営に尽力している。



●展示・体験

島根県防災危機管理課と大田市危機管理室の協力により、この日は災害対策用品があすてらすに集結！普段なかなか目に見えない避難所関連用品などの使用方法や使い心地を体験できるスペースや、各家庭で備えておくべき持ち出し用品の展示、非常食の試食もあり、子どもから大人まで多くの方が防災意識を高めるきっかけとなりました。



避難所で世帯を区切る「ファミリールーム」の中に入りしてみたり、仕切りの高さを体験。



更衣室や授乳室に活用できる「プライベートルーム」。しまねっこも来場して防災啓発に一役買いました。

島根県観光キャラクター「しまねっこ」
島観連許諾第 3725 号

アルファ化米の梅がゆ試食。柔らかく薄味で、離乳食や介護食にも使えそう、との声も。



防災毛布や段ボールベッドなどの寝心地体験コーナー。一番人気は厚みのある銀マットでした。



分科会2

「災害時こそ元気に過ごすための食事・栄養

～あの日を忘れない、教訓を繋ぐために～

企画・運営：(公社) 島根県栄養士会

県栄養士会では、各メーカーから提供された備蓄用食品・飲料水を展示、試食体験してもらいながら、非常時の栄養管理について、参加者からの質問に答える形で分科会を実施しました。体験型は興味を持ってもらいやすい上に、時間に縛られない自由参加だったこともあり、会場内は時に行列ができるほどの大賑わい。一般には目にする機会の少ない備蓄用食品の価格や購入方法についての関心が特に高い様子で、サンプルを試食しながら熱心に質問する人たちの姿がたくさん見受けられました。

非常時の栄養バランスやカロリー摂取、水分・塩分の補給とバランス等について備えるためにも、備蓄する際には、主食になるもの、主菜になるもの、必須となる水に加えて、カセットコンロの準備が役立つことや、日常的に非常食を食べて、なくなった分を買いつくローリングストック法を用いれば、消費期限や食べ慣れないなどの心配も解消される



ことについて説明もあり、参加者からは、災害時には疎かになりがちな栄養・食事について具体的に考えるきっかけになったと好評でした。

分科会4 「がんばってます、女性消防団」

企画・運営：吉賀町女性消防団

県内の女性消防団の中でも、特に熱心に活動を行っている吉賀町女性消防団の皆さんが、日頃の活動の様子を紹介し、併せて実際に地域で行っている啓発寸劇を披露しました。

前半は、紙芝居や寸劇、カルタ、体操などの楽しい手法を用いた防火・防災などの啓発活動の紹介に始まり、他にも広報活動や、一人暮らしの高齢者宅の防火診断、車両器具の点検など、一般にあまり知られていない活動の様子が、わかりやすい写真付きの投影資料で説明され、吉賀町の全消防団員のうち1割にも満たない女性団員の皆さんが、とても幅広くかつ熱心にチームワークを高めていることがよくわかりました。

続いて、防火診断の様子と応急手当の流れという2つのテーマで行われた寸劇では、こんなに大きい舞台上で演じるのは初めてという言葉とは裏腹に、地元方言とユーモアたっぷりのシナリオに加えて、団員の皆さんの堂々たる役者ぶりに会場は終始笑いに包まれていました。参加者アンケートも「とても大切な防火・防災と応急手当についてしっかりと楽しく学ぶことができた」など、大好評の分科会となりました。



分科会3

「災害時に役立つ健康管理

～避難所生活での感染症予防、心の健康管理について～

企画・運営：(公社) 島根県看護協会

県看護協会では、血圧の測定や健康相談を行う「一日まちの保健室」を毎年運営され、看護師が直接対応してくれると人気です。今回、これとは別に災害時の健康管理を



テーマに行った分科会では、事前の広報でハンドマッサージなどリラクゼーションの実演・体験つきと告知していたこともあって、開始時には会場いっぱい人が集まるという盛況ぶりでした。あいにく、当日はこれに対応できる人が確保できなかったため、急遽この無料体験の代わりに「まちの保健室」での健康チェックを案内する等ハプニングもありましたが、予防や健康管理について丁寧な説明があり、参加者も熱心にうなずきながらメモを取る様子が見られたり、少人数になった後半には椅子を輪にしての話しやすい雰囲気、質問も活発に出ていました。

感染症については災害時だけでなく日頃からの心がけが大切なことや、心の健康を害する背景には避難所という不自由な環境や被災した時のトラウマが大きく影響することなど、いざという時に繋がる意識づけが期待できる分科会でした。

分科会5

映画「飯舘村の母ちゃんたち 土とともに」

(2016年.95分) 上映

企画・運営：(公財) しまね女性センター

出雲市出身の映画監督、古居みずえさんが東日本大震災のあった2011年から撮影・制作を続けてきた、「飯舘村の母ちゃんたち」がついに完成。今回、県内初上映されました。



この映画は、東日本大震災の原発事故によりふるさとを追われた福島県飯舘村の女性たちが、苦悩や不安の中でもたくましく明るく前に進もうとする姿に迫ったドキュメンタリー。仮設住宅に暮らす二人の女性が、農作業や村の食文化を残す活動を続けながら、笑い泣きする映像に、観る側も一緒に笑い、一緒に泣きながら、心打たれるものがありました。

来場者には、この映画を観るためだけに遠方より訪れた方もあり、アンケートからも、「他人事ではない」、「福島を忘れないためにも多くの人に観てほしい」など、同じく原発を擁する島根県民として関心の高さがうかがえました。

**ポケットクイズ
ミニ解説
【データ編】**

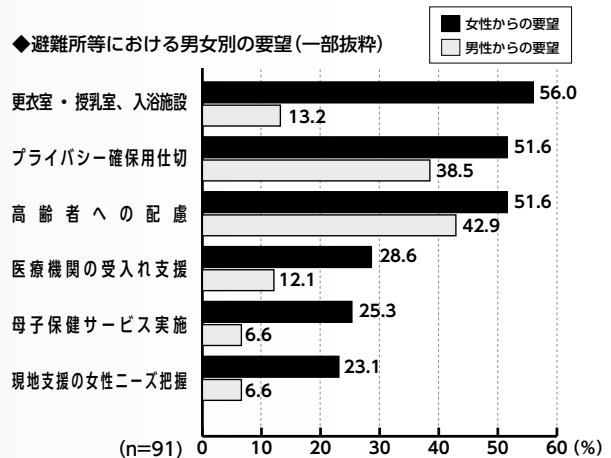
【問題】 東日本大震災被災3県の自治体が把握した避難所等でのニーズのうち、最も男女差が大きかったもの

答え

① 更衣室・授乳室、入浴施設

「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」(H24. 内閣府男女共同参画局)によると、男性に比べ女性からの要望が圧倒的に多く把握されているのは、異性の目線が気にならない「更衣室・授乳室、入浴施設」となっています(女性56.0%、男性13.2%、男女差42.9ポイント)。^②「プライバシー確保用仕切」や^③「高齢者への配慮」は、いずれも女性からの要望が51.6%と高かったものの、男性からの要望も38.5%、42.9%と比較的多く把握されています。他に、男女差の大きかった要望には、妊婦健診等の「母子保健サービスの実施」(18.7ポイント差)、「現地支援体制による女性ニーズの把握」(16.5ポイント差)、「医療機関の受入れ支援」(16.5ポイント差)などがあり、他に挙げたいずれのニーズも女性からの方が男性よりも多い結果となっています。

こうした結果を受けて、内閣府男女共同参画局では、男女共同参画の視点に配慮した災害対応について全国の自治体に取組を呼びかけ、参考事例を示すなどしており、島根県でも、男女別のニーズを反映した支援物資の備蓄や、男女共同参画視点での避難所運営等について「島根県地域防災計画」、「第3次島根県男女共同参画計画」等で取り組むこととしています。今後は、非常時だから我慢するのが当たり前ではなく、災害時であっても多様な被災者のニーズに対応できるような防災の取組が、ますます求められていくでしょう。



リリースコラム vol.9

気づくことの大切さ

大田へ通い初めて7年目に入りました。機会をいただいて、あすてらすに来てくださった方たちと一緒に、「こんな場合は?」と考えることが2点あります。一つは、松江駅の南側に並ぶあるホテルの壁にかかっている看板の文章について。もう一つは、新聞で見つけたある女性の短歌のような歌について。

看板には「元気に頑張るサラリーマン諸兄を応援します」と書かれています。朝食と夕食が無料で提供されているのだそうです。ホテル側は、「どうすれば競争に勝って、たくさんの客を自分のホテルに呼び寄せられるか努力していますよ」と、教えてくださった方もいます。これを読んで疑問はありませんか。この文章は、明らかに男性のサラリーマンを対象にしています。サラリーマンを労働者と訳すなら、男性だけでなく女性も含まれます。なぜ諸兄なのでしょう。講演の度にこのメッセージをどう考えるかお聞きしますが、なぜ大騒ぎするのか、という反応をされる方もおられます。ホテル側の努力を非難しているわけではありません。「マン=男」まで非難はしませんが、女性も重要な労働力である現代、「みなさん」

で済むと思いませんか。

ある日の新聞に、「父母にもらいし名前をおいと呼ぶ夫と暮らして傘寿となりぬ」という歌に出会いました。あなたは、連れ合いさんから何と呼ばれていますか。日本の夫婦は、子どもが生まれれば、お父さん・お母さんに。孫が生まれれば、おじいさん・おばあさんに。人前でもこれがまかり通っています。親しみがあっていいという方もいらっしゃることでしょ。さらに、「おい」や「こら」と呼ばれることを考えるとまだましではないと言われる方もいるでしょう。90歳近い男性から妻を「こら」と呼んでいるという回答には、びっくり。「おい」を付けばどうなります?明らかに、妻は低く見られています。時には、「私には、名前がありますよ」と知らせてあげてください。親さんが時間をかけて考えてつけてくださった名前ですから。

男女共同参画は毎日の生活から始めましょう。

公益財団法人しまね女性センター 理事長
猪野 郁子

男女
共同参画
実践研修

【サポーター養成・支援事業】

「あなたもできる！
ワークショップのデザイン&ファシリテーター」

●と き 平成27年10月14日(水):浜田会場
15日(木):松江会場

●講師： ちょんせいこさん
(ホワイトボード・ミーティング®開発者)



講師のちょんせいこさん

男女共同参画サポーターと市町村の男女共同参画担当職員のみなさんが、これまで培った知識や自身の経験と、それを伝える力を発揮し、地域で自らファシリテーターとなってワークショップや小規模な学習会を実施できる力をつける目的で、松江・浜田の2会場で開催しました。

指導いただいたちょんさんは、ホワイトボードを用いた効果的な会議の運営方法を自ら考案し、ファシリテーター養成講座等で引く手あまたの人気講師。ファシリテーターと言ってもそんなに構えることなく、その場にいる人たちの良好なコミュニケーションを助ける役回りであると、2人組から始めて徐々に人数を増やしつつ、全員が交代でファシリテーターの役割を体験するワークを通して、最後は皆をすっかりその気にさせてくれました。

また、「ホワイトボード・ミーティング®」という手法を使って、各自が主体的・民主的に意見を出し合いながら学習会等

の企画を練り上げていく体験も、これから地域で具体的に実施する際、すぐに使えそうと大好評。最初はちょっぴり不安そうに参加していた皆さんも、終わりには笑顔で堂々と発表されるなど、自信とやる気を両方もらえる研修となりました。



▲自信の企画をプレゼンテーション！

参加者の感想 (抜粋)

- ◆ドキドキしたり、楽しんだりと変化のある研修で、充実していました。
- ◆ホワイトボードを使って可視化することの大切さを学び、男女共同参画をいかに分かりやすく地域の人に話していくか考える良い機会になりました。

女性の
活躍推進
セミナー

「私の未来を動かす
マインドセット・アップセミナー フォローアップ編」

●と き 平成28年3月3日(水)9:45~15:30

●ところ 県立男女共同参画センターあすてらす



講師の竹之内幸子さん

8~10月にかけて東西2会場で開催した「私の未来を動かす マインドセット・アップセミナー」(全3回)の受講者を対象に、第2~3回で指導いただいた竹之内幸子さん(株式会社 Woomax 代表取締役)を再び講師にお招きしてフォローアップセミナーを開催。これまで東西会場に分かれて学んでいた受講者が、この日あす

てらすに集いました。

今回は受講者から要望の多かったタイムマネジメントをテーマに、仕事の優先順位を明確にしたうえで、他者への業務付与や提案を円滑にするために、相手がYESと言いたくなる伝え方を体得することをねらいとしました。少人数制を活かして全員の顔が見える車座形式を取り入れた



▲振りかえりがかねた車座トーク

り、グループワークで経験や価値観を共有しながら解決策を考えることで、受講者たちは交流を深めながらスキルアップするとともに、仕事への意欲を新たにしました。

今年もやります！
女性の活躍推進セミナー

働く女性が、自信をもって職場で能力を発揮できるようになることを目指して、東西2会場において3回連続講座を実施します。内容や申込方法等の詳細は決定次第、チラシやホームページにてご案内します。

- 東部会場(松江)
①9/13(火)、②9/27(火)、③10/19(水)
- 西部会場(浜田)
①9/12(月)、②9/26(月)、③10/18(火)



第3次島根県男女共同参画計画を策定しました!

島根県では、男女共同参画を推進するために、今後5年間の新しい計画を策定しました。4つの基本目標と9つの重点目標を定め、男女共同参画の推進に向けた施策を総合的かつ計画的に展開していきます。なお、この計画の基本目標Ⅲに係る部分については、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく都道府県推進計画として位置づけるものです。

目標と主な取組みの内容

基本目標Ⅰ 男女共同参画社会づくりに向けた意識の形成

男女共同参画社会の形成を阻害すると考えられる社会のしきたりや慣習などについて、社会的な合意を得ながら見直ししていくため、男女共同参画に関する認識と正しい理解の定着に努めます。

【重点目標1】 地域における慣行の見直しと意識の改革

◇全県的な広がりを持った広報・啓発活動の展開、男女共同参画に関する情報の収集・提供など

【重点目標2】 男女共同参画に関する教育・学習の推進

◇学校や家庭、地域、職場における男女共同参画に関する教育の推進など

基本目標Ⅱ ワーク・ライフ・バランスの推進

男女が仕事、家庭生活、地域活動において等しく責任を分かち合いながら、調和の取れた、充実した生活を送ることができるようにするため、これまでの働き方を見直し、改善していくための取組みを推進します。

【重点目標3】 ワーク・ライフ・バランスの気運の醸成

◇企業・団体等へのワーク・ライフ・バランスの理解促進と定着に向けた啓発活動、情報提供など

【重点目標4】 ワーク・ライフ・バランスの取組支援

◇子育て環境の整備と介護サービスの充実に向けた取組み、企業等における雇用環境整備への支援など

基本目標Ⅲ 男性も女性もあらゆる分野で活躍できる社会の実現

将来にわたり活力に溢れた社会を構築するため、社会のあらゆる分野における活動に男女が平等に参画でき、その個性と能力を十分に発揮できるような環境づくりに取り組みます。

【重点目標5】 政策・方針決定過程における男女共同参画の推進

◇県の政策・方針決定過程への女性の参画の推進と市町村、企業等における取組みの促進など

【重点目標6】 職場における男女共同参画の推進

◇企業・団体における女性の活躍推進に向けた就業環境整備への支援、人材育成など

【重点目標7】 地域・農山漁村における男女共同参画の推進

◇農林水産業や地域活動、防災対策における男女共同参画の推進など

基本目標Ⅳ 個人の尊厳の確立

男女の個人としての尊厳を確立するため、あらゆる暴力の根絶に努めます。また、男女がお互いの身体的特質を理解し、支え合いながら生きていけるよう、生涯を通じた健康の保持増進のための環境づくりに努めます。

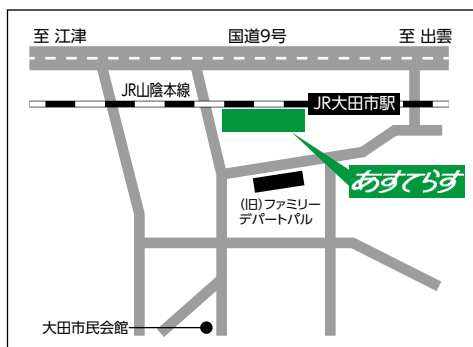
【重点目標8】 男女間におけるあらゆる暴力の根絶

◇DV(ドメスティック・バイオレンス)、性犯罪等への対策の推進やハラスメント防止対策の推進など

【重点目標9】 生涯を通じた男女の健康づくりの推進

◇エイズや性感染症などの予防、男女の性差を踏まえた健康支援、生活習慣病の予防など

※計画の全文は、県のホームページに掲載しています。 <http://www.pref.shimane.lg.jp/danjokyodo/>



島根県立男女共同参画センター

あすてらす

〒694-0064 大田市大田町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)

TEL 0854-84-5500 (代) FAX 0854-84-5589

ホームページアドレス <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/>

利用のご案内

((誰でも気軽に利用できます!))

●開館時間/9:00~19:00 (貸出し施設については21:00まで)

●休館日/毎週月曜日・国民の祝日、年末年始(12月29日~1月3日)